

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 9 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200020		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい青崎東		
所在地	広島県安芸郡府中町青崎東7-1-5 (電話) 082-581-8880		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493200020-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493200020-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年9月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

- ・アドバイザーによる内部研修の充実を図り、その人らしい生活が維持できるよう自立支援の介護技術の確立に努めている。
- ・美味しいものをいつまでも口から召していただけるよう、入居者様の嗜好、体調に合わせた食事の献立(個別献立)、水分補給の工夫を行っている。
- ・集団生活のなか、個別ケアとしてご入居者様一人ひとりのニーズに合った外出プランを計画したりグループホームだけの生活以外での関わりも大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成21年3月開設のグループホームである。周辺は住宅地の中にあり、すぐ近くにスーパーマーケットや小学校、集会所が立地しており、地域住民の生活の息づかいを感じる雰囲気である。近隣との関係も良好であり、町内会にも加入し、町内の祭りへの参加や、事業所で行う祭りへの地域住民の参加がある。

事業所は、入居者が望む雰囲気づくりを大切にしており、事業所のプログラムを押し付けるのではなく、利用者と一緒にいましょうというスタンスで運営し、利用者が思い思いに過ごせるように工夫がなされている。また、利用者の個別のニーズに配慮したプログラムとして、職員の付き添いのもとでの個別外出を行っており、グループホーム以外での社会との接点を持てるような取り組みがなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人は経営理念を各事業所に明示し、また、理念の達成に向けて当事業所のサービス方針及び事業計画を作成しており、計画に基づいてサービスを提供するよう努めている。また、事業所内での会議で理念に対する認識を見失わないようにしている。	法人の経営理念に基づき、事業所独自の事業計画を毎年度定めている。また、ユニットごとにも重点事業方針が立てられているほか、ユニットのリーダーからその都度問題事項を提示し、会議の場で話し合うことが行われるなど、管理者と職員との間で意識の共有につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の回覧の機能を活用させて頂き、行事への参加案内などの文章を作成して、配布して頂いている。 今年度は、町内会主催の夏祭りへの参加させていただき、また事業所主催の納涼祭に地域の方々に参加いただく予定としている。	町内会に加入しており、地域の回覧板を活用して事業所の活動の理解を深めているほか、地域の夏祭りにも参加し、地域住民と積極的に交流している。また、事業所で開催する納涼会では地域住民や子どもたちの参加があるなど、日頃から地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事主催と共に見学していただき、地域の方々にグループホームでの生活、認知症ケアについて理解していただけるようにしている。 また、電話や訪問付き介護等に関する相談を受けた際は、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員会の方にもご出席いただき運営推進会議におけるサービス評価の機能を活用できるよう、会議の運営などの工夫に努めている。 会議における意見などは日常のサービスに反映するように努め、疑問点や相談を随時お答えし連携を深めている。	運営推進会議には町内会からの参加のほか、民生委員、認知症の人と家族の会、近隣の他事業所の参加もあるなど、幅広い意見を聞くことで事業所の運営に結び付けている。その結果、近隣のグループホームとともに「認知症カフェ」を毎月開催するなど、事業所の枠組みを超えた取り組みがなされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	町役場への各種報告書類や届出書は、郵送ではなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。 町担当課の皆様には、事業所のPRや町広報誌への掲載などボランティアの受入れについても協力を頂いている。	町役場との連携が日常的にあり、ボランティアの定期的な受け入れや、日頃からのコミュニケーションの継続を行っている。その結果、事業所の取り組みについて理解を示してもらい、協力関係を築く工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内研修を通して、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について理解を深め、身体拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現に取り組みと、ケア全体の向上や生活環境の改善に努めている。	身体拘束予防のために、定期的な研修やマニュアルの整備が整えられている。点滴針の抜去の恐れが高い入居者についても、見守り対応を行うことで、身体拘束を行っていない。玄関にセンサーを取り付けているが、日中は施錠をしないなど、身体拘束とならないようなケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修を実施し、全職員が高齢者虐待防止などはあってはならないとの意識を有しており、日常的に意図して業務に従事している。ご入居者様のペースに合わせ、寄り添ったケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の対象となる入居者様がおられるが、全ての職員が、権利擁護に関する制度について認識できているという状況にはない。今後は、ご家族など関係者と連携し必要とする制度利用について支援に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、各種同意書を掲示し、具体的に説明するよう努めている。ご入居者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消し、安心して入居していただけるよう適切な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については、本年度の報告を含め3月の開催を計画している。ご家族面会時及び月一回のご連絡時には、ご入居者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を提示し、外部の相談・苦情窓口の説明を行っている。	年に1回行われる家族会には、9割近い家族の参加があるほか、家族の面会時にも個別に聞き取りを行い、意見の反映に努めている。また、申し送りノートも活用し、利用者の様子や要望等も記録に取っている。家族の意見を取り入れながら食事形態の改善を行うなど、日頃から家族意見の反映に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に3回の全体会議及び月1回ユニットミーティング開催時に管理者が出席し、職員の意見等を聞いて必要の都度、運営に反映するよう努めている。 全職員が事業所の運営に対して率直に意見を述べ、意見を具体化する取り組みに努めている。また、面談の機会を設けて意見を言える場を作っている。	ホーム全体の会議を年に3回、ユニット全体の会議を月に1回行われているほか、個別に職員と面談を行い、業務改善の方法や効率の良い方法などを管理者は職員とともに考えている。その結果、掃除箇所に関する改善提案が職員から挙がるなど、事業所の運営に反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、統括責任者と密に報告・連絡・相談を行いながら職員の意見なども聞き、日常的に職員のモチベーションが維持できるよう個別的に話を聞くなどの配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修企画を作成し、計画的に内部研修を実施している。月に1度は事業所においてスーパーバイザーによる研修も実施されており、事例検討などより具体的な知識・技術の修得に努めている。また、法人が職員の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、マイスター試験(一次：筆記試験 二次：実技試験)を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席及び隔月に地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院などを訪問して事業所の活動紹介することを通して、信頼関係の構築に努めている。また、月一回の府中町グループホーム連絡会議を行い連携に努め、毎月合同で認知症カフェを開催している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前訪問面接時は、施設職員、訪問看護師で伺い、いろいろな不安なことも含め話ができるように努めている。 ご本人様及びご家族等関係者の方に安心していただけるよう的確なアセスメントを行い関係性を深めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談を行い、入居前にご本人及びご家族等関係者に係る際は、しっかりとお話を聴き、ご本人及びご家族の希望や疑問を受け止め、必要な情報を提供するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族が望むことがあれば共に考え、それらに添えるように努力すると共に現段階で何を必要としているかを判断し、相談など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	的確にアセスメントを行い、人格を尊重して、共に生活をする視点を忘れず、接遇にも十分配慮している。ご本人の生活習慣を把握し、日々の生活のなかで取り組まれるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や電話の際には日々の様子をお伝えするように努めている。 また、家族様からの質問や相談などに対応できるように努めている。話易い環境を作れるようにこちらから積極的にコミュニケーションをとるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にされてきた方々との面会時には会話を支援するなど、継続的にご面会を頂けるような雰囲気作りに努めている。面会に来所された方が、また来所したいと感じていただける関係作りに努めている。また、個別ケアとして馴染みの場所へ外出できるよう支援している。	訪問者との面会時には、利用者の日頃の様子を報告するよう心がけている。個別ケアの取り組みとして、馴染みの店への外出を行うなど、本人のそれまでの関係性を維持できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの個性を把握し、リビング内での空間、机の配置の工夫を行っている。また、それぞれが関わりが持てるように共同作業を行うことで、なじみの関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去の際には、共に過ごした日々様子を記録したアルバムやカレンダーを手渡し、気軽に立ち寄って頂くよう話している。次の生活場所の支援者に対する適切な情報提供など、必要に応じて可能な限り協力に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いの把握に努め、できるだけ日常のケアの中に取り入れるようにしている。把握が困難な場合は職員間での情報を共有し、ミーティングなどで話し合い、支援ができるように努めている。	本人の「外へ出たい」という意向には、職員も一緒に外出し見守りを行うなど、本人本位に対応している。また本人の日頃の言動や家族からの聞き取りを通じて、本人の生活歴を把握し、ケース記録に記入、申し送りを行い事業所全体で把握し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人及びご家族等関係者から、ご本人の生活史や生活環境などの情報をできるだけ詳細にお聴きして、ご入居者の暮らし方にあった生活作りに取り組んでいる。また、アセスメント表に入居前にご家族に生活史や馴染みの環境について、できるだけ詳細に聴き、記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常のご入居者の様子観察に努めている。個々の職員が把握した情報は、記録・申し送りにより職員間で情報を共有し、ご入居者の現状を総合的に把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン担当制をとっており、担当者は他の職員の意見も合わせて、ご本人の生活課題と適切な支援のあり方を具体的に介護計画書(案)に記載している。担当者が作成した計画書をカンファレンスで話し合い、それぞれの意見を反映させている。</p>	<p>個別の担当者とケアマネジャーが共同でケアプランを作成し、他のスタッフや管理者も含め、多面的に検討がなされている。ケアプランは実際の介護との乖離がないよう工夫がなされており、モニタリングにおいても、月に1回、家族に聞き取りを行いながら実施し、ケアプランには家族の意見も盛り込んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には、生活状況やケア内容などを記載し、職員は引継ぎや記録により、ご入居者個別の情報の共有に努めている。また、記載されていることに日々のケア場面で取り組むことにより多くのことに気付くことができ、そのような内容を評価し介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族から、相談などがあった場合には、必要の都度、法人内外の事業所と連携をとりながら、可能な限り要望にお応えできるように努めている。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内で行われている催し物にできるだけ参加させていただき、住み慣れた地域での心身の力を発揮できるように支援させていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間に1回、法人内のクリニック医師の往診を受けて頂いている。体調に変化が発生した場合は、その都度、訪問看護師を通じて主治医に状態報告しており、指示ある場合は、速やかに受診介助などの対応に努めている。また、ご家族の不安などについては、必要に応じて直接主治医より説明を頂いている。</p>	<p>2週間に1回往診が行われ、訪問看護師を通じて医療との連携は随時行われ、専門医の受診が必要な場合は、紹介状により適切な医療につなげている。また、月1回主治医以外の往診があり、セカンドオピニオンのような役割になっているなど、入居者の適切な医療が受けられるように配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護師が来所し、入居者の状態観察及び医学的処置など、必要に応じて行っている。 ご入居者の体調に変化が生じた場合は、休日・夜間を問わず看護師に報告・相談し、必要の都度、受診介助などの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者には可能な限り面会して病院スタッフからの情報収集に努めている。 入院予定期間が急遽早まるなどの状況にも柔軟に対応するよう努めている。 また、協力医療機関以外の相談員、病棟師長などスタッフとの連携も大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居契約時に重度化した場合や看取りに関する意向を確認している。 看取りに関する指針を整備し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう努めている。本人の身体状況の変化に伴い、早い段階から家族などにも説明を行い同意を得るようにしている。	実際に事業所内で看取りも行われている。入居契約時に重度化した場合の意向確認に加えて、家族、医師、事業所の3者面談においても、その都度、家族の意向を聞き取っている。1週間おきにカンファレンスも行い、本人の身体状況を的確に把握し、チームで支援に取り組む体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習の研修に参加するなど、事故発生時に備えて、職員はスキルの向上に努めている。また、日常的に訪問看護師を中心に、応急手当や初期対応について指導を受けて、日々の入居者の健康管理に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、年2回の消防訓練を企画し、今年度は10月に2回目の訓練を行う予定にしている。府中町消防局の職員の協力も頂き、消火器訓練を実施している。災害などの対策についても日々地域の方々との連携をとりながら支援を頂くようにしている。 また、地域での火災訓練にも参加させて頂いている。	年に2回、避難訓練を行っているほか、消火器の訓練や、避難経路の確認を行っている。町内との交流を通じて、日頃から災害対応のための準備を行っているほか、地域の火災訓練にも参加するなど、日頃から地域との協力体制を築いている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への尊厳に配慮した接遇には、十分留意して接している。日々の対応について、ユニットミーティングで再確認を行い、年長者への敬いの気持ちを忘れずに傾聴し、寄り添うようにしている。	利用者の意見や行動を、否定や禁止をせずに受け入れている。また、日頃から言葉遣いは敬語を徹底している。入浴時においても前の人が完全に終わり、席に戻りゆっくり座る時間を取ってから次の人を誘導するなど、決して焦らせないように配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行動ひとつに対して、まずご本人の了承、了解を得て誘導している。本人様の思いを入浴や買い物といった場面で話しやすい場を作る工夫を行っている。職員主導にならないように留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく、ご利用者の生活リズムに合わせて、安全確認した上、一人ひとりご自由に過ごして頂いている。そして、なるべく自発的行動を引き出そうと努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回、訪問理・美容サービス業者に来所頂き、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パーマなどの対応を頂いている。美容サービスもご入居者のニーズに合った訪問サービスを選択し、適切に必要なとされる支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立では、肉類を好まない方には別な副菜を考慮するなど、一人ひとりの嗜好に合った献立を立案している。食材切り、テーブル拭き、配膳など、職員と共に準備している。個々に応じ、ある程度役割分担ができています。	朝食と昼食は、あらかじめ調理された食材が運ばれるが、利用者の好みに合わせて別メニューに変更可能である。夕食は近所のスーパーで購入した食材を一緒に切ったり、皮を剥いたりするのも楽しみの一つである。天井から出ている電気コードにより、調理器具を使用しやすくしているなどの工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご入居者の栄養状態などを把握し、日常の献立の点検、栄養バランスの取れた食材など工夫頂いている。好みの飲み物の把握に努め、それぞれに合った水分の提供を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアについては、徹底している。また、義歯使用のご入居者には定期的にポリドントを使用し、義歯洗浄に努めている。訪問歯科の往診による口腔内の洗浄など、指導も頂いている。できる限り自分で磨いて頂き、磨き残しについては支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはできるだけ使用しないように、トイレでの排泄に努力している。ファンレストテーブル（前傾姿勢支持テーブル）の導入により、トイレでの排泄が促進されている。	1ユニット当たり5か所トイレが設置され、それぞれ手すりの位置や広さが違うため、利用者の状態に合わせたトイレを使用することができる。ファンレストテーブルによる利用者のトイレでの排泄促進や、終末期を除きオムツを使用していないなど、排泄の自立支援に向けた取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	全職員が便秘の原因や及ぼす影響に関する認識は持っている。しっかり水分、食事を食べる、そして体操・散歩をして体を動かす取り組みも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の意向を伺い、体調や気分配慮して入浴して頂いている。基本的に2日に1回入浴していただき、職員との関係性も配慮して、出来るだけ気持ちの良い入浴時間となるように努めている。失禁などがあれば、速やかに入浴していただいている。体調不良や拒否などにより、入浴が困難な場合には清拭を行い、清潔保持に努めている。	基本的に2日に1回、午後2時以降に入浴しているが、本人が入りたくない場合には無理強いせず、清拭など、他の方法で対応している。また、入浴の声かけや介助をする職員も、本人に合う職員が対応するなど、本人本位の配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者の生活習慣や体力に応じて、いつでも居室やリビングで休まれるよう配慮している。自立されていない方には、傾眠状態時などソファへ座って休んでいただいたり、臥床スペースとしても活用している。また、個々の安心できる場所（居室、窓際）へ誘導したりと、休める環境づくりに努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬に変更があった場合に職員が変更内容を把握できるように記録に残している。効能についても理解できるように効能書をファイルに閉じている。変化があれば、その都度主治医、看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食材切り、盛り付け、掃除など、それぞれ役割を持ち行動していただけるように努めている。アクティビティー、散歩、野菜収穫など、外の空気を吸うことで季節を感じていただいたり気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な支援では、毎日の買い物の付き添い、近場の公園などに散歩へ出かけられる。家族にも声をかけさせていただき、家族支援もあるなか外出している。地域の行事にも積極的に参加して楽しまれている。個別での好まれる場所への外出を支援している。	近所のスーパーへの買い物や、近隣への散歩など、その日の天気を見ながら日常的に外出できるよう対応がなされている。また、家族と一緒に外出できるように準備を行うなど支援を行っているほか、地域行事への参加など、日常的に外出ができるような支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居者のお金の管理にしては、紛失しないように、細心の注意を払っている。ご本人と話をさせて頂きながら、お金を持つことの大切さや、紛失しないための管理方法などを理解して頂き、お金を使うことに関しては、職員が同行のもと、使用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等の事情に配慮しながら、ご本人からの電話を支援したり、先方から電話がある際にはご本人に取り次いでいる。入居者様に届いた手紙やはがきなどは本人様にお便りしたり、朗読させていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の生活空間は清潔を保ち、入居者様が混乱されないように、いつもと変わらない空間に配慮している。また、季節感ができるように飾りつけなどにも工夫を行っている。リビングには生花・緑を飾り、視覚を養っている。最近では、カレンダー代わりに、白板に日にちが分かるように大きく記入している。	共有空間は風通しや採光も良く、過ごしやすい空間になるよう配慮がなされている。また、生け花、植物、職員手作りの飾りつけや、入居者の日頃の様子を写真として掲示するなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを設置し、ご入居者のくつろげる空間の確保に努めている。安全に配慮した上で、机のレイアウト、気の合ったご入居者と談話できるように席の配置にも工夫を行っている。ひとりひとりの居場所作りには、もう少し工夫し取り組みたい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者のなじみのある使い慣れた家具や調度品類、絵画、写真などをご持参頂いている。安全面には十分配慮し、入居者自身の在宅での生活の雰囲気作りに努めている。	居室への持込み禁止物は、危険物を除いて特になく、使い慣れた馴染みの物を持ち込むことができる。本人の状態に応じて、職員の顔写真を貼ることで落ち着いてもらえるような工夫がされていたり、ベッドではなく床にマットとじゅうたんを敷いている部屋もあるなど、本人本位の寛げる雰囲気づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体面では、一人ひとりの今ある力が十分に発揮でき、自由に行動できるよう、動線上の障害物には配慮し、可能な限り広々とした空間が維持できるように努めている。手すりを使用し、歩くことで下肢筋力の維持にもつながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人は経営理念を各事業所に明示し、また、理念の達成に向けて当事業所のサービス方針及び事業計画を作成しており、計画に基づいてサービスを提供するよう努めている。また、事業所内での会議で理念に対する認識を見失わないようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の回覧の機能を活用させて頂き、行事への参加案内などの文章を作成して、配布して頂いている。 今年度は、町内会主催の夏祭りへの参加させていただき、また事業所主催の納涼祭に地域の方々に参加いただく予定としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事主催と共に、見学していただき地域の方々にグループホームでの生活、認知症ケアについて理解していただけるようにしている。 また、電話や訪問頂き介護等に関する相談を受けた際は、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員会の方にもご主席いただき運営推進会議におけるサービス評価の機能を活用できるよう、会議の課題などの工夫に努めている。 会議における意見などは日常のサービスに反映するように努め、疑問点や相談を随時お答えし連携を深めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	町役場への各種報告書類や届出書は、郵送ではなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。 町担当課の皆様には、事業所のPRや町広報誌への掲載などボランティアの受入れについても協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	法人内研修を通して、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について理解を深め、身体拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現に取り組みと、ケア全体の向上や生活環境の改善に努めている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	法人内研修を通して、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について理解を深め、身体拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現に取り組みと、ケア全体の向上や生活環境の改善に努めている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	成年後見人制度の対象となる入居者様がおられるが、全ての職員が、権利擁護に関する制度について認識できているという状況にはない。今後は、ご家族など関係者と連携し必要とする制度利用について支援に努めたい。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	重要事項説明書及び契約書、各種同意書を掲示し、具体的に説明するよう努めている。ご入居者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消し、安心して入居していただけるよう適切な説明に努めている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	家族会については、本年度の報告を含め3月の開催を計画している。ご家族面会時及び月一回のご連絡時には、ご入居者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を掲示し、外部の相談・苦情窓口の説明を行い、職員の情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に3回の全体会議及び月1回ユニットミーティング開催時に管理者が出席し、職員の意見等を聞いて必要の都度、運営に反映するよう努めている。 全職員が事業所の運営に対して率直に意見を述べ、意見を具体化する取り組みに努めている。また、面談の機会を設けて意見を言える場を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、統括責任者と密に報告・連絡・相談を行いながら職員の意見なども聞き、日常的に職員のモチベーションが維持できるよう個別的に話を聞くなどの配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修企画を作成し、計画的に内部研修を実施している。月に1度は事業所においてスーパーバイザーによる研修も実施されており、事例検討などより具体的な知識・技術に努めている。また、法人が職員個別の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、マイスター試験(一次:筆記試験 二次:実技試験)を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席及び隔月に地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院などを訪問して事業所の活動紹介することを通して、信頼関係の構築に努めている。また、月一回の府中町GH連絡会議を行い連携に努め、毎月合同で認知症カフェを開催している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談を行い、入居前にご本人及びご家族等関係者に係る際は、しっかりとお話を聴き、ご本人及びご家族の希望や疑問などを受け止め、必要な情報を提供するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談を行い、入居前にご本人及びご家族等関係者に係る際は、しっかりとお話を聴き、ご本人及びご家族の希望や疑問を受け止め、必要な情報を提供するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族が望むことがあれば共に考え、それらに添えるように努力すると共に現段階で何を必要としているかは判断し相談など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	的確にアセスメントを行い、人格を尊重して共に生活をする視点を忘れず、接遇にも十分配慮している。ご本人の生活習慣を把握し、日々の生活のなかで取組まれるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や電話の際には日々の様子をお伝えするように努めている。また、家族様より質問や相談などに対応できるように努めている。話易い環境を作れるようにこちらより積極的にコミュニケーションをとるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にして来られた方々の面会時には会話を支援するなど、継続的にご面会を頂けるような雰囲気作りに努めている。面会に来所された方が、また来所したいと感じていただける関係作りに努めている。また、個別ケアとして馴染みの場所へ外出できるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者の個別性に配慮し、日常生活の中に体操や共同作業に取り組んで頂くなどご入居者同士の仲間作りを意図したプログラムに取り組んでいる。食卓を囲む、外出、レクリエーションなど、その他役割などから輪を広げたり、それ以外にも自発的に会話、入居者様同士の助け合いといった行動も見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去の際には、共に過ごした日々様子を記録したアルバムやカレンダーを手渡して、気軽に立ち寄って頂くよう話している。次の生活場所の支援者に対する適切な情報提供など、必要に応じて可能な限り協力に努める。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のご本人との関わりを通して、意図的にコミュニケーションを持って意向を把握するように努めている。意思表示困難なご入居者もいらっしゃるが、日々の言動、様子から何を望み出来るのか日々考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人及びご家族等関係者から、ご本人の生活史や生活環境などの情報をできるだけ詳細にお聴きして、ご入居者の暮らし方にあった生活作りに取り組んでいる。また、アセスメント表に入居前にご家族に生活史や馴染みの環境について、できるだけ詳細に記載いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の職員が把握した情報は、記録・申し送りにより職員間で情報を共有し、ご入居者の現状を総合的に把握するように努めている。当法人で取り組んでいる「握手」をすることで表情、手の力の入り具合などから体調に変化がないか考え、報告・連絡・相談を怠らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン担当制をとっており、担当者は他の職員の意見も合わせて、ご本人の生活課題と適切な支援のあり方を具体的に介護計画書(案)に記載している。プラン内容についてはご家族が来所された際に意見などを伺い、情報交換などできる機会を大切にしている。それ以外にも、月1回のカンファレンスにより内容を具体化し個々の担当者が最終的に内容をまとめ作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には、生活状況やケア内容などを記載し、職員は引継ぎや記録により、ご入居者個別の情報の共有に努めている。また、記載されていることに日々のケア場面で取り組むことにより多くのことに気付くことができ、そのような内容を評価し介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族から、相談などがあった場合には、必要の都度、法人内外の事業所と連携をとりながら、可能な限り要望にお応えできるように努めている。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内で行われている催し物にできるだけ参加させていただき、住み慣れた地域での心身の力を発揮できるように支援させていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間に1回法人内のクリニック医師の往診を受けて頂いている。体調に変化が発生した場合は、その都度、訪問看護師を通じて主治医に状態報告しており、指示ある場合は、速やかに受診介助などの対応に努めている。また、ご家族の不安などについては、必要に応じて直接主治医より説明をして頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護師が来所し、入居者の状態観察及び医学的処置など、必要に応じて行っている。 ご入居者の体調に変化が生じた場合は、休日・夜間を問わず看護師に報告・相談し、必要の都度、受診介助などの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者には、可能な限り面会して病院スタッフからの情報収集に努めている。 入院予定期間が急遽早まるなどの状況にも柔軟に対応するよう努めている。 また、協力医療機関以外の相談員、病棟師長などスタッフとの連携も大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居契約時に重度化した場合や看取りに関する意向を確認している。 看取りに関する指針を整備し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう努めている。本人の身体状況の変化に伴い、早い段階から家族などにも説明を行い同意を得るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習の研修に参加するなど、事故発生時に備えて、職員はスキルの向上に努めている。また、日常的に訪問看護師を中心に応急手当や初期対応について指導を受けて日々の入居者の健康管理に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、年2回の消防訓練を企画し、今年度は10月に2回目の訓練を行う予定にしている。府中町消防局の職員の協力も頂き、消火器訓練を実施している。災害などの対策についても日々地域の方々との連携をとりながら支援を頂くようにしている。 また、地域での火災訓練にも参加させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への尊厳に配慮した接遇には、十分留意して接している。敬語を基本とし傾聴から入り受容を行う。相手を知ることによってその方に合った接し方を追求する。そのためには、日々の様子観察、コミュニケーションが重要である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何かを決めるときは必ずその有無を確認し対応している。 行動ひとつに対して、まずご本人様の了承、了解を得て誘導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく、ご利用者の生活リズムに合わせて、安全確認した上、一人ひとりご自由に過ごして頂いている。 「風呂に入りたい!」「あっちに行きたい。」それぞれ可能な限り、思いに沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回訪問理・美容サービス業者に来所頂き、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パーマなどの対応を頂いている。髪を整えたり、ピン止めをしたり、髭剃りを生じていただいたりできることは自分でしていただけるように声かけを行っている。また、着こなしも可能な限り自分で選んでいただけるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立では、肉類を好まない方には別な副菜を考慮するなど一人ひとりの嗜好に合った献立を立案している。食材切り、テーブル拭き、配膳など職員と共に準備している。自発的行為もあり役割が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	ご入居者の食事量、栄養状態などを把握し、食事量が減少している場合はその方が食べやすい献立の工夫に努めている。水分代わりに寒天ゼリーを作りおやつ時に召し上がっていただいている。肥満気味な方には、カロリー減の甘味料を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアについては、徹底している。また、義歯使用のご入居者には定期的にポリデントを使用し義歯洗浄に努めている。ハミングット、口腔用シートを使用し確実な清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはできるだけ使用しないように、トイレでの排泄に努力している。ファンレストテーブルの導入により、トイレでの排泄がそくしんされている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	全職員が便秘の原因や及ぼす影響に関する認識は持っている。しっかり水分、食事を食べる、そして体操・散歩をして体を動かすことでほぼ便秘には減少している。食物繊維を含む食材、寒天ゼリーを作り排便促進するようにしている。また、排便コントロールとして、個々の排便リズムを把握した上、内服薬でも調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の意向を伺い、体調や気分配慮して入浴して頂いている。基本的に2日に1回入浴していただき、職員との関係性も配慮して出来るだけ気持ちの良い入浴時間となるように努めている。職員の声かけで難しい入居者様に関しては家族が来所いただいたときに声かけの支援をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者の生活習慣や体力に応じて、いつでも居室やリビングで休まれるよう配慮している。自立されていない方には傾眠状態の時などソファへ座って休んでいただいたり、臥床スペースとしても活用している。日中の活動量を工夫し、夜間はゆっくり休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を確実にケースファイルに綴り、全ての職員が記載事項を把握するように努めている。医師、看護師と相談、連携しながら内服薬のコントロールをしている。薬の変更などがあれば記載し日々様子観察し経過を追うようにしている。薬の変更などがあれば記載し日々様子観察し経過を追うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食材切り、盛り付け、掃除などそれぞれ役割を持ち行動していただけるように努めている。生活歴、ご家族からの話を日々の様子観察の上、役割を共に探し共に活動している。外出、行事を企画し、より楽しい生活となるよう努力している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な支援では、毎日の買い物の付き添い、近場の公園などに散歩へ出かけられる。また、自主的にご家族がお連れすることも多い。地域の行事にも積極的に参加して楽しまれている。それぞれの思いに添った外出支援は可能な限り行うようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居者のお金の管理には、紛失しないように細心の注意を払っている。ご本人と話をさせて頂きながらお金を持つことの大切さや、紛失しないための管理方法などを理解して頂き、お金を使うことに関しては、職員が同行のもと、購入できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族等の事情に配慮しながら、ご本人からの電話を支援したり、先方から電話がある際にはご本人に取り次いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共通の生活空間は、清潔を保ち入居者が混乱されないようにいつもと変わらない空間に配慮している。 清潔感ある不快なく過ごせるよう統一を図り、取り組んでいる。 また、季節感できるように飾りつけなどにも工夫を行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにソファと畳を設置し、ご入居者のくつろげる空間の確保に努めている。安全に配慮した上で、机のレイアウト、気の合ったご入居者と談話できるように席の配置にも工夫を行っている。また、玄関にベンチを設置し外でもくつろげる空間作りに工夫を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご入居者のなじみのある使い慣れた家具や調度品類、絵画、写真などをご持参頂いている。 安全面には十分配慮し、入居者自身の在宅での生活の雰囲気作りに努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>身体面では一人ひとりの今ある力が十分に発揮でき、自由に行動できるよう、動線上の障害物には配慮し可能な限り、広々とした空間が維持できるように努めている。 安定・安心した環境作りを行い、自発的行動を引き出し取組み努力している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない



64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい青崎東

作成日 平成28年2月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	来て頂けるのを待っているだけになってしまっている。	気軽によって頂ける施設になる。	行事を地域に発信し、施設に来て頂き知ってもらう。	1年以内
2	16	面会になかなか来る事が出来ない家族との連携について	面会に来られなくても状態を把握し、安心まかせて頂けるようにする。	手紙、電話を使つての連絡相談。	1年以内
3	34	緊急時の対応について全員での徹底	全員が慌てず同じ対応出来るようにする。	連絡方法を確立し意識の徹底をする。定期的に面談などで確認を行う。	3か月以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。